

社会福祉法人における現任研修のあり方に関する考察 —基本的価値に関する研修の受講者評価に基づいて—

志 村 久仁子

1 研究の背景と目的

(1) 社会福祉法人制度改革と社会福祉法人A における取り組み

福祉ニーズがますます複雑多様化し、福祉サービスの提供も多様な担い手によって展開される昨今、社会福祉法人はそのあり方が問われてきた。2016(平成28)年3月に社会福祉法等の一部改正が成立し、社会福祉法人制度改革が進められており、「経営組織のガバナンスの強化」や「事業運営の透明性の向上」等を通じて、国民へ説明責任を果たすことや、「地域における公益的な取組を実施」し地域社会に貢献することが求められている(厚生労働省n.d.)。ますます高まる福祉ニーズに対応できる福祉人材の確保も切実な課題となっている。

そのようななか、本研究で取り上げる社会福祉法人Aでは(以下、「法人A」という)、法人のブランディングを確かなものとするのが重要だと考えた。本稿では「ブランディング」を、社会福祉法人ならではの価値ある独自性を明確にする取り組みとして用いる。法人Aの前身の設立は戦前にさかのぼるが、現在の法人名に改称し、事業も現在に連なるかたちで開始されるのは戦後、1951(昭和26)年の社会福祉事業法に基づき、社会福祉法人となって以降のことである。現在は児童福祉事業部(保育園やこども園、学童クラブの設置運営や受託運営等)、厚生事業部(更生施設や宿所提供施設、宿泊所の

設置運営や受託運営、生活保護の自立支援プログラムに関する事業の受託運営、生活困窮者自立支援法の自立相談支援事業や、一時生活支援事業の受託運営等)、医療介護事業部(病院や老人保健施設、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターの設置運営等)の3つの事業部があり、受託事業の増加等に伴い規模が拡大し続けていることも、ブランディングの必要性を認識させた。法人ではブランディングにあたり、法人の基本理念や基本方針に改めて立ち返るとともに、取り組みのひとつとして、新たに「コアバリュー研修」を立ち上げることにした。

(2) コアバリュー研修の概要

法人Aでは、内部研修として職員の階層別研修、事例検討会、職場ごとの勉強会などを実施しているほか、外部機関等で行われる研修にも積極的に職員を送り出している。内部研修として2016(平成28)年度、新たに行われた「コアバリュー研修」は、児童福祉部と厚生事業部合同で、新人から管理職まで職員全体を対象とした⁽¹⁾。研修名称が示すように、法人が大切にしたいこと(コアバリュー)を職員全体で共有し深め、よりよい支援につなげることを目的として企画されたものである。法人の基本理念は「人権を尊重し、人の生き方を支えること」「人を活かし、人に活かされること」「社会とのつながりを大事にし、調和を図ること」である。こ

の理念をふまえ、法人として提供する支援で核となる概念として「利用者から出発する」ことや、「ソーシャル・インクルージョン」を根底に置くことなどが浮かび上がり、これらを実現するためには「対話」が基本となることを確認した。こうして研修では、支援で大切にしたい基本的な価値や考え方を表1「法人Aの行う支援で大切にしたい基本的な概念」の7つに整理し、講義・演習を通じ職員全体で理解、共有することをねらいとした。

研修の実施にあたっては、職員の勤務体制等も考慮し一日研修⁽²⁾の形をとり、同一内容を複数回開催することで、さまざまな職場から数名ずつ参加できるようにした。2016(平成28)年度は、9月から翌年2月にかけて計10回実施し、計130名(男性46名、女性84名)が参加した。研修の講師は法人内の施設に所属する臨床心理士で、本部の業務や研修等も行っている職員が3コマ、法人の第三者委員及び評議員をしている筆者が1コマ担当した。

(3) アンケート調査による評価の実施と本研究の目的

1) アンケート調査による受講者評価の実施

研修では毎回、終了時に感想等を自由記述で回答してもらったが、これとは別に、すべての研修が終了したのちに、今後の研修をより充実させることを目的として、受講者全員を対象に自記式アンケートによる調査を実施した。調査票では表1で示した7つの概念について、それ

ぞれどの程度理解できたか、「大いに理解できた」から「全く理解できなかった」まで5件法の順序尺度で問うとともに、その選択理由を自由記述で回答してもらった。さらに「大いに理解できた」「理解できた」と回答した職員にはサブクエスチョンを設け、実践への応用について3つの選択肢(「日頃の自分の実践に照らし合わせてみた」「実践で活用してみたいと思った」「意識して実践してみた」)から回答してもらった。なお、回答者の基本属性に関し、勤務先種別(「施設(厚生事業部)」「事業所・相談窓口(厚生事業部)」「児童館・学童保育」「病院」「保育園・こども園)、職種(「児童指導員」「相談支援員」「保育士)、福祉・保育業務の経験年数(積算)、年代を把握した。調査票は2017(平成29)年2月に各職場を通じて配布、回収した。年度内の研修が終了した後の調査実施であったため、回答者によっては研修受講から半年近くが経過してしまった職員もいた。

研修参加者130名(厚生事業部64名、児童福祉事業部62名、医療介護事業部4名)のうち、回収された調査票は118名分(回収率90.77%)であった。筆者が調査結果の分析を担当し「調査報告書」にまとめた⁽³⁾が、相談支援員(62名)と保育士(51名)という職種によって回答に傾向があることが明らかになった⁽⁴⁾。

2) 研究の目的

そこで本研究では、相談支援員と保育士に焦点をあて再度分析を試みる。研修で扱った法人

表1 法人Aの行う支援で大切にしたい基本的な概念

1. 利用者(子ども)から出発する	2. 利用者(子ども)の主体性を大切にする
3. パターンリズムに気をつける	4. ソーシャル・インクルージョンを根底におく
5. 対話を意識的に活用する	6. ストレングスの視点を大切にする
7. 価値の多様性を尊重する	

注：以下、「1. 利用者から出発」「2. 利用者の主体性」「3. パターンリズム」「4. インクルージョン」「5. 対話を重視」「6. ストレングス」「7. 価値の多様性」とする。

出典：研修資料をもとに筆者作成

Aの支援で大切にしたい7つ(表1)は社会福祉の基本的な価値や考え方でもあるが、これらについての解説や演習が現任職員にどのように届いたか、職種による特徴や傾向を明らかにするとともに、職種に配慮した、より効果的な研修のあり方について検討することを目的とする。

2 研究の方法

(1) 研究の方法

調査票の回答について単純集計、クロス集計を行うとともに、自由記述部分についてはKH Coderによる計量テキスト分析⁽⁵⁾を行い、分析の際に定量的、定性的な評価を融合させることを意図した。

「調査報告書」ではすべての設問について、回答の単純集計、基本属性と回答のクロス集計を実施した。その際、回答すべき項目に一部空欄がある人の場合も、回答されている項目は集計対象に加えたため、項目によって総計が異なっている。なお、本稿執筆にあたり単純集計、クロス集計ともに再分析した。再分析にあたっては職種が空欄の人(1名)を除いたため、本稿で示した表の数値は「調査報告書」とは若干違いが生じている箇所もある。

計量テキスト分析においては、各設問について頻出語のリスト、共起ネットワーク図、職種による特徴語のリスト、勤務先と職種の対応分

析、理解度による特徴語のリストを作成し、記述例を提示した。本研究ではこれらに加え、定量的分析においては職種に経験年数も加味して分析し、計量テキスト分析においてはコーディングによる分析を行った。

(2) 倫理的配慮

本研究は、筆者が所属する日本社会福祉学会の研究倫理指針に則り実施した。「調査報告書」に基づいて本論文を執筆することに関して、法人理事会にて承認をいただいた。分析にあたっては、個人や事業所が特定されないかたちで統計的に処理を行うとともに、自由記述の例示に際しては、加工し個人情報の保護に努めた。

3 結果

(1) 7つの基本的な価値に対する理解状況 (定量的分析)

職員全体では、先の表1に示した7つの基本的な概念に対する理解について、表2「基本的な概念の理解状況」のようになった。「大いに理解できた」または「理解できた」と回答した職員の割合が高く、両者を合わせると最も低いもので79.31%(インクルージョン)、最も高いもので94.07%(利用者の主体性)を占めた。

次に、職種による理解の特徴がうかがえるものを表3「職種別の理解状況」に示した。「大

表2 基本的な概念の理解状況

	人数(割合)					
	大いに理解できた	理解できた	どちらでもない	あまり理解できなかった	全く理解できなかった	総計
1.利用者から出発	23 (19.66%)	86 (73.50%)	8 (6.84%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	117 (100.00%)
2.利用者の主体性	36 (30.51%)	75 (63.56%)	7 (5.93%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	118 (100.00%)
3.パターナリズム	30 (25.86%)	77 (66.38%)	8 (6.90%)	1 (0.86%)	0 (0.00%)	116 (100.00%)
4.インクルージョン	21 (18.10%)	71 (61.21%)	22 (18.97%)	2 (1.72%)	0 (0.00%)	116 (100.00%)
5.対話を重視	29 (24.58%)	76 (64.41%)	10 (8.47%)	3 (2.54%)	0 (0.00%)	118 (100.00%)
6.ストレングス	40 (34.19%)	66 (56.41%)	9 (7.69%)	2 (1.71%)	0 (0.00%)	117 (100.00%)
7.価値の多様性	27 (22.88%)	70 (59.32%)	16 (13.56%)	5 (4.24%)	0 (0.00%)	118 (100.00%)

表3 職種別の理解状況

人数(割合)

	大いに理解 できた	理解できた	どちらでも ない	あまり理解 できなかった	全く理解 できなかった	総計
1.利用者から出発						
児童指導員	1 (25.00%)	3 (75.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	4 (100.00%)
相談支援員	12 (19.67%)	45 (73.77%)	4 (6.56%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	61 (100.00%)
保育士	10 (19.61%)	37 (72.55%)	4 (7.84%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	51 (100.00%)
総計	23 (19.83%)	85 (73.28%)	8 (6.90%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	116 (100.00%)
2.利用者の主体性						
児童指導員	1 (25.00%)	2 (50.00%)	1 (25.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	4 (100.00%)
相談支援員	19 (30.65%)	37 (59.68%)	6 (9.68%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	62 (100.00%)
保育士	16 (31.37%)	35 (68.63%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	51 (100.00%)
総計	36 (30.77%)	74 (63.25%)	7 (5.98%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	117 (100.00%)
3.パートナーリズム						
児童指導員	2 (50.00%)	2 (50.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	4 (100.00%)
相談支援員	21 (34.43%)	37 (60.66%)	3 (4.92%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	61 (100.00%)
保育士	7 (14.00%)	37 (74.00%)	5 (10.00%)	1 (2.00%)	0 (0.00%)	50 (100.00%)
総計	30 (26.09%)	76 (66.09%)	8 (6.96%)	1 (0.87%)	0 (0.00%)	115 (100.00%)
4.インクルージョン						
児童指導員	1 (25.00%)	3 (75.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	4 (100.00%)
相談支援員	15 (25.00%)	33 (55.00%)	11 (18.33%)	1 (1.67%)	0 (0.00%)	60 (100.00%)
保育士	5 (9.80%)	34 (66.67%)	11 (21.57%)	1 (1.96%)	0 (0.00%)	51 (100.00%)
総計	21 (18.26%)	70 (60.87%)	22 (19.13%)	2 (1.74%)	0 (0.00%)	115 (100.00%)
5.対話を重視						
児童指導員	1 (25.00%)	1 (25.00%)	1 (25.00%)	1 (25.00%)	0 (0.00%)	4 (100.00%)
相談支援員	12 (19.35%)	42 (67.74%)	6 (9.68%)	2 (3.23%)	0 (0.00%)	62 (100.00%)
保育士	16 (31.37%)	32 (62.75%)	3 (5.88%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	51 (100.00%)
総計	29 (24.79%)	75 (64.10%)	10 (8.55%)	3 (2.56%)	0 (0.00%)	117 (100.00%)
6.ストレングス						
児童指導員	2 (50.00%)	1 (25.00%)	1 (25.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	4 (100.00%)
相談支援員	21 (34.43%)	36 (59.02%)	3 (4.92%)	1 (1.64%)	0 (0.00%)	61 (100.00%)
保育士	17 (33.33%)	28 (54.90%)	5 (9.80%)	1 (1.96%)	0 (0.00%)	51 (100.00%)
総計	40 (34.48%)	65 (56.03%)	9 (7.76%)	2 (1.72%)	0 (0.00%)	116 (100.00%)
7.価値の多様性						
児童指導員	1 (25.00%)	1 (25.00%)	1 (25.00%)	1 (25.00%)	0 (0.00%)	4 (100.00%)
相談支援員	15 (24.19%)	35 (56.45%)	9 (14.52%)	3 (4.84%)	0 (0.00%)	62 (100.00%)
保育士	11 (21.57%)	33 (64.71%)	6 (11.76%)	1 (1.96%)	0 (0.00%)	51 (100.00%)
総計	27 (23.08%)	69 (58.97%)	16 (13.68%)	5 (4.27%)	0 (0.00%)	117 (100.00%)

いに理解できた」と回答した職員で見ると、「パートナーリズム」と「インクルージョン」は相談支援員が保育士に比べ約15から20ポイント程度高く、「対話」は保育士が約12ポイント高い。「利用者の主体性」は保育士では「大いに理解できた」と「理解できた」のみであった。また「インクルージョン」について保育士の「大いに理解できた」の割合は9.80%で、7つの概念のうち最も低い値だった。

なお、相談支援員の勤務先は「施設(厚生事業部)」(以下、「施設」とする)または「事業所・相談窓口(厚生事業部)」(以下、「事業所・相談窓口」とする)であるが、勤務先による回答の特徴もみられた。「インクルージョン」について「大いに理解できた」と回答した職員の割合は「施設」15.38%(4名)、「事業所・相談窓口」30.30%(10名)だったが、「どちらでもない」「あまり理解できなかった」では、「施設」が11.54%(3名)と0.00%だったのに対し、「事業所・相談窓口」は24.24%(8名)、3.03%(1名)だった(志村2017:30-33)。

経験年数を「0～5年目」「6～10年目」「11～20年目」「21年目以上」に分類して⁽⁶⁾、経験年数による理解状況を見たところ、職員全体では他の経験年数の層と比べて「大いに理解できた」割合が高かったものに、「0～5年目」では高い順に「ストレングス」(40.91%)、「利用者の主体性」(35.56%)、「インクルージョン」(22.73%)があった。「6～10年目」では同様に「パートナーリズム」(29.27%)、「利用者から出発」(24.39%)があり、「11～20年目」では「対話を重視」(32.00%)があげられた(志村2017:36-39)⁽⁷⁾。職種による影響の有無を調べるため職種も加えた三重クロス集計を行ったところ、表4「経験年数と職種別にみた理解状況」となった。この表からとくに「ストレングス」「パートナーリズム」「インクルージョン」は相談支援員が、「対話を

重視」は保育士が、それぞれ「大いに理解できた」の数値を上げるのに影響していることが読み取れた。

(2) 理解できたと回答した職員の実践への応用(定量的分析)

調査票では先の表1に示した7つについて「大いに理解できた」または「理解できた」と回答した職員に対し、サブクエスチョンで「日頃の自分の実践に照らし合わせてみた」「実践で活用してみたいと思った」「意識して実践してみた」(以下、「照らし合わせた」「活用したい」「実践してみた」とする)のうち最も当てはまるものを選択してもらった。職員全体(設問により84名から97名が回答)では(志村2017:29)、「ストレングス」以外のすべてで「照らし合わせた」が最も高く、次いで「活用したい」「実践してみた」と続いた。「照らし合わせた」は高い順に「利用者から出発」(63.44%)、「パートナーリズム」(61.86%)、「利用者の主体性」(59.38%)、「インクルージョン」(51.19%)、「対話を重視」(52.13%)で50%以上を占めた。「ストレングス」は「活用したい」が最も多く47.87%だった。

職種別にみたものが表5「職種別の実践への応用」である。「活用したい」では、「利用者の主体性」「ストレングス」「価値の多様性」で保育士が相談支援員よりかなり高く、「ストレングス」と「価値の多様性」は約20ポイントの開きがあった。「実践してみた」では、「対話を重視」を除くすべてで相談支援員の割合が高かった。とくに「価値の多様性」「利用者の主体性」「ストレングス」で保育士と比較して相談支援員は約10から11ポイント高かった。「対話を重視」は保育士の「実践してみた」割合が19.05%で最も高かった。

経験年数別に職種別の実践への応用を見た結果、表6「経験年数と職種別にみた実践への応

表4 経験年数と職種別にみた理解状況

1.利用者から出発	大いに理解できた			小計	理解できた			小計	どちらでもない 相談支援員
	児童指導員	相談支援員	保育士		児童指導員	相談支援員	保育士		
～5年	0.00%	8.89%	6.67%	15.56%	0.00%	42.22%	37.78%	80.00%	4.44%
6～10年	0.00%	15.00%	10.00%	25.00%	2.50%	30.00%	30.00%	67.50%	2.50%
11～20年	4.00%	0.00%	12.00%	16.00%	8.00%	36.00%	28.00%	72.00%	4.00%
21年～	0.00%	50.00%	0.00%	50.00%	0.00%	50.00%	0.00%	50.00%	0.00%
総計	0.88%	10.53%	8.77%	20.18%	2.63%	38.60%	31.58%	72.81%	3.51%
2.利用者の主体性	大いに理解できた			小計	理解できた			小計	どちらでもない 児童指導員
	児童指導員	相談支援員	保育士		児童指導員	相談支援員	保育士		
～5年	0.00%	20.00%	15.56%	35.56%	0.00%	33.33%	28.89%	62.22%	0.00%
6～10年	0.00%	14.63%	12.20%	26.83%	2.44%	34.15%	31.71%	68.29%	0.00%
11～20年	4.00%	8.00%	16.00%	28.00%	4.00%	20.00%	32.00%	56.00%	4.00%
21年～	0.00%	50.00%	0.00%	50.00%	0.00%	50.00%	0.00%	50.00%	0.00%
総計	0.87%	16.52%	13.91%	31.30%	1.74%	31.30%	29.57%	62.61%	0.87%
3.パターンリズム	大いに理解できた			小計	理解できた			小計	どちらでもない 相談支援員
	児童指導員	相談支援員	保育士		児童指導員	相談支援員	保育士		
～5年	0.00%	20.00%	4.44%	24.44%	0.00%	33.33%	35.56%	68.89%	2.22%
6～10年	2.50%	22.50%	5.00%	30.00%	0.00%	32.50%	30.00%	62.50%	0.00%
11～20年	4.00%	8.00%	12.00%	24.00%	8.00%	24.00%	32.00%	64.00%	8.00%
21年～	0.00%	33.33%	0.00%	33.33%	0.00%	66.67%	0.00%	66.67%	0.00%
総計	1.77%	18.58%	6.19%	26.55%	1.77%	31.86%	31.86%	65.49%	2.65%
4.インクルージョン	大いに理解できた			小計	理解できた			小計	どちらでもない 相談支援員
	児童指導員	相談支援員	保育士		児童指導員	相談支援員	保育士		
～5年	0.00%	15.91%	6.82%	22.73%	0.00%	25.00%	29.55%	54.55%	13.64%
6～10年	0.00%	12.50%	2.50%	15.00%	2.50%	32.50%	27.50%	62.50%	5.00%
11～20年	4.00%	4.00%	4.00%	12.00%	8.00%	24.00%	36.00%	68.00%	12.00%
21年～	0.00%	50.00%	0.00%	50.00%	0.00%	50.00%	0.00%	50.00%	0.00%
総計	0.88%	13.27%	4.42%	18.58%	2.65%	28.32%	29.20%	60.18%	9.73%
5.対話を重視	大いに理解できた			小計	理解できた			小計	どちらでもない 児童指導員
	児童指導員	相談支援員	保育士		児童指導員	相談支援員	保育士		
～5年	0.00%	11.11%	11.11%	22.22%	0.00%	33.33%	33.33%	66.67%	0.00%
6～10年	0.00%	12.20%	9.76%	21.95%	2.44%	34.15%	29.27%	65.85%	0.00%
11～20年	4.00%	0.00%	28.00%	32.00%	0.00%	40.00%	16.00%	56.00%	4.00%
21年～	0.00%	50.00%	0.00%	50.00%	0.00%	50.00%	0.00%	50.00%	0.00%
総計	0.87%	10.43%	13.91%	25.22%	0.87%	35.65%	26.96%	63.48%	0.87%
6.ストレス	大いに理解できた			小計	理解できた			小計	どちらでもない 児童指導員
	児童指導員	相談支援員	保育士		児童指導員	相談支援員	保育士		
～5年	0.00%	25.00%	15.91%	40.91%	0.00%	25.00%	29.55%	54.55%	0.00%
6～10年	2.44%	14.63%	12.20%	29.27%	0.00%	34.15%	17.07%	51.22%	0.00%
11～20年	4.00%	8.00%	20.00%	32.00%	4.00%	32.00%	28.00%	64.00%	4.00%
21年～	0.00%	50.00%	0.00%	50.00%	0.00%	50.00%	0.00%	50.00%	0.00%
総計	1.75%	18.42%	14.91%	35.09%	0.88%	30.70%	23.68%	55.26%	0.88%
7.価値の多様性	大いに理解できた			小計	理解できた			小計	どちらでもない 児童指導員
	児童指導員	相談支援員	保育士		児童指導員	相談支援員	保育士		
～5年	0.00%	15.56%	8.89%	24.44%	0.00%	28.89%	33.33%	62.22%	0.00%
6～10年	0.00%	12.20%	9.76%	21.95%	2.44%	29.27%	21.95%	53.66%	0.00%
11～20年	4.00%	4.00%	12.00%	20.00%	0.00%	28.00%	32.00%	60.00%	4.00%
21年～	0.00%	50.00%	0.00%	50.00%	0.00%	50.00%	0.00%	50.00%	0.00%
総計	0.87%	13.04%	9.57%	23.48%	0.87%	29.57%	27.83%	58.26%	0.87%

用」となった。「活用したい」は相談支援員、保育士ともに「パターンリズム」を除く概念において「0～5年目」の職員で高くなる傾向があった⁽⁸⁾。特に「ストレス」「価値の多様性」は相談支援員と保育士をあわせると「活用したい」で「0～5年目」の職員全体の52.63%、

52.78%を占めた。

「照らし合わせた」では相談支援員は経験年数別に見て全体的に「6～10年目」で高くなる傾向がうかがえ、最も低いものでも「価値の多様性」の30.77%であり、最も高いものでは「利用者から出発」の41.94%だった。これに対し保

社会福祉法人における現任研修のあり方に関する考察

	小計	おぼろげに理解できなかった	全く理解できなかった	総計	実数(人)				
保育士									
0.00%	4.44%	0.00%	0.00%	100.00%	45				
5.00%	7.50%	0.00%	0.00%	100.00%	40				
8.00%	12.00%	0.00%	0.00%	100.00%	25				
0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	4				
3.51%	7.02%	0.00%	0.00%	100.00%	114				
相談支援員	小計	おぼろげに理解できなかった	全く理解できなかった	総計	実数(人)				
2.22%	2.22%	0.00%	0.00%	100.00%	45				
4.88%	4.88%	0.00%	0.00%	100.00%	41				
12.00%	16.00%	0.00%	0.00%	100.00%	25				
0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	4				
5.22%	6.09%	0.00%	0.00%	100.00%	115				
保育士	小計	おぼろげに理解できなかった	小計	全く理解できなかった	総計	実数(人)			
4.44%	6.67%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	45			
5.00%	5.00%	2.50%	2.50%	0.00%	100.00%	40			
4.00%	12.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	25			
0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	3			
4.42%	7.08%	0.88%	0.88%	0.00%	100.00%	113			
保育士	小計	おぼろげに理解できなかった	小計	全く理解できなかった	総計	実数(人)			
9.09%	22.73%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	44			
12.50%	17.50%	2.50%	2.50%	5.00%	100.00%	40			
8.00%	20.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	25			
0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	4			
9.73%	19.47%	0.88%	0.88%	1.77%	100.00%	113			
相談支援員	保育士	小計	おぼろげに理解できなかった	小計	全く理解できなかった	総計	実数(人)		
8.89%	0.00%	8.89%	0.00%	2.22%	0.00%	100.00%	45		
4.88%	4.88%	9.76%	0.00%	2.44%	2.44%	100.00%	41		
0.00%	4.00%	8.00%	4.00%	0.00%	4.00%	100.00%	25		
0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	4		
5.22%	2.61%	8.70%	0.87%	1.74%	2.61%	100.00%	115		
相談支援員	保育士	小計	おぼろげに理解できなかった	小計	全く理解できなかった	総計	実数(人)		
4.55%	0.00%	4.55%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	44		
2.44%	12.20%	14.63%	2.44%	2.44%	4.88%	100.00%	41		
0.00%	0.00%	4.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	25		
0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	4		
2.63%	4.39%	7.89%	0.88%	0.88%	1.75%	100.00%	114		
相談支援員	保育士	小計	おぼろげに理解できなかった	小計	全く理解できなかった	総計	実数(人)		
11.11%	2.22%	13.33%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	45	
4.88%	9.76%	14.63%	0.00%	7.32%	2.44%	9.76%	0.00%	100.00%	41
8.00%	4.00%	16.00%	4.00%	0.00%	0.00%	4.00%	0.00%	100.00%	25
0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	4
7.83%	5.22%	13.91%	0.87%	2.61%	0.87%	4.35%	0.00%	100.00%	115

育士では「0～5年目」が「インクルージョン」(24.24%)、「6～10年目」が「パターナリズム」(30.30%)と「ストレングス」(20.00%)、「11～20年目」で「利用者から出発」(45.00%)、「利用者の主体性」(33.33%)、「対話を重視」(30.00%)、「価値の多様性」(26.32%)が高く、概念により異

なった。

「実践してみた」割合は総じて相談支援員が高くなる傾向にあるものの、全体的に低かった。「ストレングス」は保育士で「実践した」がほとんどない(0.00%～2.63%)が、「活用したい」が「0～5年目」31.58%、「11～20年目」

表5 職種別の実践への応用

				人数(割合)
1.利用者から出発	照らし合わせた	活用したい	実践してみた	総計
児童指導員	2 (50.00%)	2 (50.00%)	0 (0.00%)	4 (100.00%)
相談支援員	28 (59.57%)	14 (29.79%)	5 (10.64%)	47 (100.00%)
保育士	28 (68.29%)	12 (29.27%)	1 (2.44%)	41 (100.00%)
総計	58 (63.04%)	28 (30.43%)	6 (6.52%)	92 (100.00%)
2.利用者の主体性	照らし合わせた	活用したい	実践してみた	総計
児童指導員	3 (75.00%)	1 (25.00%)	0 (0.00%)	4 (100.00%)
相談支援員	27 (57.45%)	12 (25.53%)	8 (17.02%)	47 (100.00%)
保育士	26 (59.09%)	15 (34.09%)	3 (6.82%)	44 (100.00%)
総計	56 (58.95%)	28 (29.47%)	11 (11.58%)	95 (100.00%)
3.バスターナリズム	照らし合わせた	活用したい	実践してみた	総計
児童指導員	2 (50.00%)	2 (50.00%)	0 (0.00%)	4 (100.00%)
相談支援員	31 (58.49%)	17 (32.08%)	5 (9.43%)	53 (100.00%)
保育士	26 (66.67%)	11 (28.21%)	2 (5.13%)	39 (100.00%)
総計	59 (61.46%)	30 (31.25%)	7 (7.29%)	96 (100.00%)
4.インクルージョン	照らし合わせた	活用したい	実践してみた	総計
児童指導員	2 (50.00%)	2 (50.00%)	0 (0.00%)	4 (100.00%)
相談支援員	23 (51.11%)	17 (37.78%)	5 (11.11%)	45 (100.00%)
保育士	17 (50.00%)	15 (44.12%)	2 (5.88%)	34 (100.00%)
総計	42 (50.60%)	34 (40.96%)	7 (8.43%)	83 (100.00%)
5.対話を重視	照らし合わせた	活用したい	実践してみた	総計
児童指導員	1 (50.00%)	1 (50.00%)	0 (0.00%)	2 (100.00%)
相談支援員	27 (55.10%)	16 (32.65%)	6 (12.24%)	49 (100.00%)
保育士	20 (47.62%)	14 (33.33%)	8 (19.05%)	42 (100.00%)
総計	48 (51.61%)	31 (33.33%)	14 (15.05%)	93 (100.00%)
6.ストレングス	照らし合わせた	活用したい	実践してみた	総計
児童指導員	2 (50.00%)	2 (50.00%)	0 (0.00%)	4 (100.00%)
相談支援員	23 (46.00%)	20 (40.00%)	7 (14.00%)	50 (100.00%)
保育士	15 (38.46%)	23 (58.97%)	1 (2.56%)	39 (100.00%)
総計	40 (43.01%)	45 (48.39%)	8 (8.60%)	93 (100.00%)
7.価値の多様性	照らし合わせた	活用したい	実践してみた	総計
児童指導員	2 (100.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	2 (100.00%)
相談支援員	23 (47.92%)	16 (33.33%)	9 (18.75%)	48 (100.00%)
保育士	14 (38.89%)	19 (52.78%)	3 (8.33%)	36 (100.00%)
総計	39 (45.35%)	35 (40.70%)	12 (13.95%)	86 (100.00%)

社会福祉法人における現任研修のあり方に関する考察

表6 経験年数と職種別にみた実践への応用

1.利用者から出発	照らし合わせた			小計			活用したい			小計			実践した	小計			総計	実数(人)
	児童指導員	相談支援員	保育士	児童指導員	相談支援員	保育士	児童指導員	相談支援員	保育士	児童指導員	相談支援員	保育士						
～5年	0.00%	26.32%	26.32%	52.63%	0.00%	23.68%	21.05%	44.74%	2.63%	0.00%	2.63%	100.00%	38					
6～10年	0.00%	41.94%	25.81%	67.74%	3.23%	9.68%	12.90%	25.81%	6.45%	0.00%	6.45%	100.00%	31					
11～20年	10.00%	15.00%	45.00%	70.00%	5.00%	10.00%	0.00%	15.00%	10.00%	5.00%	15.00%	100.00%	20					
21年～	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	2					
総計	2.20%	30.77%	29.67%	62.64%	2.20%	15.38%	13.19%	30.77%	5.49%	1.10%	6.59%	100.00%	91					
2.利用者の主体性	照らし合わせた			小計			活用したい			小計			実践した	小計			総計	実数(人)
	児童指導員	相談支援員	保育士	児童指導員	相談支援員	保育士	児童指導員	相談支援員	保育士	児童指導員	相談支援員	保育士						
～5年	0.00%	23.08%	28.21%	51.28%	0.00%	23.08%	17.95%	41.03%	5.13%	2.56%	7.69%	100.00%	39					
6～10年	2.94%	38.24%	23.53%	64.71%	0.00%	5.88%	17.65%	23.53%	11.76%	0.00%	11.76%	100.00%	34					
11～20年	11.11%	16.67%	33.33%	61.11%	5.56%	0.00%	11.11%	16.67%	11.11%	11.11%	22.22%	100.00%	18					
21年～	0.00%	66.67%	0.00%	66.67%	0.00%	33.33%	0.00%	33.33%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	3					
総計	3.19%	28.72%	26.60%	58.51%	1.06%	12.77%	15.96%	29.79%	8.51%	3.19%	11.70%	100.00%	94					
3.パターンリズム	照らし合わせた			小計			活用したい			小計			実践した	小計			総計	実数(人)
	児童指導員	相談支援員	保育士	児童指導員	相談支援員	保育士	児童指導員	相談支援員	保育士	児童指導員	相談支援員	保育士						
～5年	0.00%	32.50%	25.00%	57.50%	0.00%	17.50%	15.00%	32.50%	5.00%	5.00%	10.00%	100.00%	40					
6～10年	0.00%	36.36%	30.30%	66.67%	3.03%	24.24%	3.03%	30.30%	3.03%	0.00%	3.03%	100.00%	33					
11～20年	11.11%	16.67%	27.78%	55.56%	5.56%	5.56%	22.22%	33.33%	11.11%	0.00%	11.11%	100.00%	18					
21年～	0.00%	66.67%	0.00%	66.67%	0.00%	33.33%	0.00%	33.33%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	3					
総計	2.13%	31.91%	26.60%	60.64%	2.13%	18.09%	11.70%	31.91%	5.32%	2.13%	7.45%	100.00%	94					
4.インクルージョン	照らし合わせた			小計			活用したい			小計			実践した	小計			総計	実数(人)
	児童指導員	相談支援員	保育士	児童指導員	相談支援員	保育士	児童指導員	相談支援員	保育士	児童指導員	相談支援員	保育士						
～5年	0.00%	21.21%	24.24%	45.45%	0.00%	24.24%	21.21%	45.45%	6.06%	3.03%	9.09%	100.00%	33					
6～10年	0.00%	32.14%	17.86%	50.00%	3.57%	25.00%	14.29%	42.86%	7.14%	0.00%	7.14%	100.00%	28					
11～20年	11.76%	29.41%	23.53%	64.71%	5.88%	0.00%	17.65%	23.53%	5.88%	5.88%	11.76%	100.00%	17					
21年～	0.00%	33.33%	0.00%	33.33%	0.00%	66.67%	0.00%	66.67%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	3					
総計	2.47%	27.16%	20.99%	50.62%	2.47%	20.99%	17.28%	40.74%	6.17%	2.47%	8.64%	100.00%	81					
5.対話を重視	照らし合わせた			小計			活用したい			小計			実践した	小計			総計	実数(人)
	児童指導員	相談支援員	保育士	児童指導員	相談支援員	保育士	児童指導員	相談支援員	保育士	児童指導員	相談支援員	保育士						
～5年	0.00%	25.64%	20.51%	46.15%	0.00%	20.51%	20.51%	41.03%	5.13%	7.69%	12.82%	100.00%	39					
6～10年	0.00%	31.03%	17.24%	48.28%	3.45%	17.24%	10.34%	31.03%	10.34%	10.34%	20.69%	100.00%	29					
11～20年	5.00%	25.00%	30.00%	60.00%	0.00%	10.00%	15.00%	25.00%	5.00%	10.00%	15.00%	100.00%	20					
21年～	0.00%	66.67%	0.00%	66.67%	0.00%	33.33%	0.00%	33.33%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	3					
総計	1.10%	28.57%	20.88%	50.55%	1.10%	17.58%	15.38%	34.07%	6.59%	8.79%	15.38%	100.00%	91					
6.ストレス	照らし合わせた			小計			活用したい			小計			実践した	小計			総計	実数(人)
	児童指導員	相談支援員	保育士	児童指導員	相談支援員	保育士	児童指導員	相談支援員	保育士	児童指導員	相談支援員	保育士						
～5年	0.00%	21.05%	13.16%	34.21%	0.00%	21.05%	31.58%	52.63%	10.53%	2.63%	13.16%	100.00%	38					
6～10年	0.00%	33.33%	20.00%	53.33%	3.33%	23.33%	16.67%	43.33%	3.33%	0.00%	3.33%	100.00%	30					
11～20年	10.00%	15.00%	15.00%	40.00%	5.00%	15.00%	30.00%	50.00%	10.00%	0.00%	10.00%	100.00%	20					
21年～	0.00%	33.33%	0.00%	33.33%	0.00%	66.67%	0.00%	66.67%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	3					
総計	2.20%	24.18%	15.38%	41.76%	2.20%	21.98%	25.27%	49.45%	7.69%	1.10%	8.79%	100.00%	91					
7.価値の多様性	照らし合わせた			小計			活用したい			小計			実践した	小計			総計	実数(人)
	児童指導員	相談支援員	保育士	児童指導員	相談支援員	保育士	児童指導員	相談支援員	保育士	児童指導員	相談支援員	保育士						
～5年	0.00%	25.00%	13.89%	38.89%	25.00%	27.78%	52.78%	5.56%	2.78%	8.33%	100.00%	36						
6～10年	3.85%	30.77%	11.54%	46.15%	19.23%	19.23%	38.46%	11.54%	3.85%	15.38%	100.00%	26						
11～20年	5.26%	15.79%	26.32%	47.37%	5.26%	21.05%	26.32%	21.05%	5.26%	26.32%	100.00%	19						
21年～	0.00%	66.67%	0.00%	66.67%	33.33%	0.00%	33.33%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	3						
総計	2.38%	26.19%	15.48%	44.05%	19.05%	22.62%	41.67%	10.71%	3.57%	14.29%	100.00%	84						

30.00%と高い割合を示した。

(3) 7つの基本的な価値に対する理解状況の
回答理由(計量テキスト分析)

先の表1で示した7つの基本的概念の理解度に対する自由記述回答について、KH Coderによる計量テキスト分析を行った。頻出語10位のリスト化からは、講師が説明する際に用いた言葉やレジユメの表現が多く見受けられた(志村2017:15)。職種によって特に多く出現している言葉上位10ずつをリストアップすると、表7「職種による特徴語(上位10)」になった。

「インクルージョン」では相談支援員は「社会」、保育士は「家庭」や「安心」が特徴語にあがっている。「パターナリズム」では、「意識」(相談支援員)するや「気(をつける)」(保育士)、「(パターナリズムに)陥る」(相談支援員)、「押しつける」(保育士)といった特徴語が見られた。「対話を重視」では、保育士は(子どもの)「気持ち」や「考え」を大切にすること、相談支援員は「傾聴」の姿勢をもつことといった特徴語が見られた。

さらに、記述頻出150語のリストおよび自由記述回答原文をもとに表8「コーディングルール」を作成し、職種による差の分析を行った結果、表9「理解状況の回答理由(記述)の職種による差」のようになった。

「利用者から出発」に関しては「状況」にカイ2乗検定による有意差(p<0.05)が認められた。「利用者の主体性」ではカイ2乗検定による有意差は認められなかったが、「大切」で相談支援員が10.3ポイント高かった。「パターナリズム」も同様に「意識」が14.6ポイント、「陥る」が8.83ポイント相談支援員で高かった。「インクルージョン」では「社会」(相談支援員)、「家庭」「安心」(ともに保育士)にカイ2乗検定による有意差(p<0.05)が認められ、カイ2乗検定による有意差は認められないものの「連携」で相談支援員が7.45ポイント高かった。「対話を重視」ではカイ2乗検定による有意差は認められなかったが、保育士で「気持ち」が8.73ポイント高かった。「ストレングス」では「教材」(相談支援員)にカイ2乗検定による有意差(p<0.05)が認められた。「価値の多様性」ではカイ2乗検定による有意差は認められなかったが、「社会」「教材」(ともに相談支援員)で6.37ポイント差があった。

4 考察

7つの基本的な価値や考え方についての理解の程度を問うた結果、相談支援員で、より受けとめられやすかったものとして、「パターナリズム」と「インクルージョン」があげられた。この結果について、相談支援員が支援対象とし

表7 職種による特徴語(上位10)

	1. 利用者から出発		2. 利用者の主体性		3. パターナリズム		4. インクルージョン		5. 対話を重視		6. スtrenグス		7. 価値の多様性	
	相談支援員	保育士	相談支援員	保育士	相談支援員	保育士	相談支援員	保育士	相談支援員	保育士	相談支援員	保育士	相談支援員	保育士
1	利用	子ども	利用	子ども	支援	自分	社会	理解	対話	大切	ストレングス	良い	感じる	価値
2	支援	大切	大切	考える	思う	相手	思う	知る	利用	子ども	支援	人	支援	尊重
3	理解	出発	主体性	思う	利用	子ども	支援	家庭	思う	相手	視点	思う	自分	人
4	人	感じる	支援	自分	感じる	思い	大切	作る	理解	関係	利用	大切	理解	思う
5	考える	考える	感じる	保育	パターナリズム	理解	感じる	居場所	支援	信頼	強み	持つ	必要	それぞれ
6	観察	見る	本人	援助	主体性	大切	人	安心	意識	感じる	強い	子ども	利用	大切
7	学ぶ	保育	主体	行動	考える	気	利用	大切	改めて	気持ち	考える	見つける	相手	違う
8	本人	今	尊重	必要	陥る	気付く	排除	難しい	必要	考え	感じる	自分	持つ	多様
9	視点	改めて	人	意識	必要	押しつける	考える	考え	会話	日々	課題	目	判断	考える
10	課題	自分	改めて	生きる	意識	保育	繋がり	考える	傾聴	自分	生活	相手	社会	考え方

社会福祉法人における現任研修のあり方に関する考察

ているのは多くが大人や社会人であり、日々の業務を通じて「社会」との関わりを意識しやすいこと、その一方で対象者は失業、住居喪失、疾病、DV、生活困窮などさまざまな生活課題を抱えた人たちが少なくないため、その支援においてパターナリズムに陥る危険も高いことが影響していると考えられる。ただし、「インクルージョン」は職場(施設、事業所・相談窓口)による差があり、事業所・相談窓口ではよく理解できた職員の割合が高い一方、「どちらでもない」などの職員も施設より顕著に多かった。

多くの職員に共有してもらえよう研修内容や方法に検討の余地がある。

また、「インクルージョン」は保育士にとり最も理解しにくかった概念であり、「パターナリズム」がこれに続いた。保育士が支援対象とするのは主に乳幼児であり、その成長・発達保障を重視し、保育園・こども園という場での直接支援が中心となるため、「社会」との関係を目頃から意識することが容易ではなかったり、子どもは保護する・教え導くものという意識が働きやすい面があったりすることが推察され

表8 コーディングルール

1. 利用者(子ども)から出発すること
観察：観察 or 見る
課題：課題 or 問題 or 解決 or 障害
状況：視点 or 立場
感情思考：考える or 感じる or 思い or 感じ or 考え or 発想 or 興味
2. 利用者(子ども)の主体性を大切にすること
力：力 or 自信 or 生き生き or イキイキ or 輝く or 発揮
社会：社会 or 環境 or 状況
生活：生活 or 人生 or 暮らし or 生きる
大切：大切 or 尊重 or 寄り添う or 共感 or 見守る
3. パターナリズムに気をつけること
意識：気 or 意識 or 注意 or 留意
受容：共感 or 寄り添う or 受け入れる or 尊重
陥る：陥る or 決めつける or 押しつける or 押し付ける or 当てはまる
4. ソーシャル・インクルージョンを根底におくこと
社会：社会 or 排除 or 参加 or 孤立 or 包摂 or 環境 or 地域
家庭：家庭 or 親
安心：安心 or 安全
連携：繋がり or 繋がる or 協力 or 橋渡し
5. 対話を意識的に活用すること
信頼関係：信頼 or 関係
傾聴：聞く or 傾聴 or 傾ける
気持ち：気持ち or 考え or 思い
受容：受容 or 共感 or 受け止める or 受け入れ
6. ストレングスの視点を大切にすること
環境：環境 or 地域 or 社会 or 職員 or 周り or 家族 or 組織
意欲：意欲 or 自信 or 前向き or やる気
教材：ビデオ or ブタ or 豚 or 兄ちゃん or 秋田 or 藤里 or 社協 or 事例
7. 価値の多様性を尊重すること
尊重：尊重 or 大切 or 大事 or 受け入れる or 認める or 受け止める or 重要
葛藤：葛藤 or すり合わせ or 衝突 or 対峙
社会：社会 or 環境
教材：ワークシート or ワーク or 演習

表9 理解状況の回答理由(記述)の職種による差

人数(割合)

1. 利用者から出発					
	観察	課題	状況	感情思考	ケース数
相談支援員	16 (26.67%)	6 (10.00%)	7 (11.67%)	25 (41.67%)	60(100.00%)
保育士	12 (23.53%)	2 (3.92%)	0 (0.00%)	19 (37.25%)	51(100.00%)
合計	28 (25.23%)	8 (7.21%)	7 (6.31%)	44 (39.64%)	111(100.00%)
カイ2乗値	0.026	0.75	4.529*	0.078	
2. 利用者の主体性					
	力	社会	生活	大切	ケース数
相談支援員	8 (13.33%)	3 (5.00%)	10 (16.67%)	25 (41.67%)	60(100.00%)
保育士	4 (7.84%)	4 (7.84%)	8 (15.69%)	16 (31.37%)	51(100.00%)
合計	12 (10.81%)	7 (6.31%)	18 (16.22%)	41 (36.94%)	111(100.00%)
カイ2乗値	0.386	0.049	0	0.851	
3. パターナリズム					
	意識	受容	陥る	ケース数	
相談支援員	17 (28.33%)	7 (11.67%)	10 (16.67%)	60(100.00%)	
保育士	7 (13.73%)	6 (11.76%)	4 (7.84%)	51(100.00%)	
合計	24 (21.62%)	13 (11.71%)	14 (12.61%)	111(100.00%)	
カイ2乗値	2.663	0	1.229		
4. インクルージョン					
	社会	家庭	安心	連携	ケース数
相談支援員	25 (41.67%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	8 (13.33%)	60(100.00%)
保育士	10 (19.61%)	6 (11.76%)	5 (9.80%)	3 (5.88%)	51(100.00%)
合計	35 (31.53%)	6 (5.41%)	5 (4.50%)	11 (9.91%)	111(100.00%)
カイ2乗値	5.234*	5.339*	4.092*	0.981	
5. 対話を重視					
	信頼関係	傾聴	気持ち	受容	ケース数
相談支援員	9 (15.00%)	7 (11.67%)	3 (5.00%)	5 (8.33%)	60(100.00%)
保育士	7 (13.73%)	4 (7.84%)	7 (13.73%)	2 (3.92%)	51(100.00%)
合計	16 (14.41%)	11 (9.91%)	10 (9.01%)	7 (6.31%)	111(100.00%)
カイ2乗値	0	0.125	1.607	0.315	
6. ストレングス					
	環境	意欲	教材	ケース数	
相談支援員	7 (11.67%)	5 (8.33%)	11 (18.33%)	60(100.00%)	
保育士	5 (9.80%)	4 (7.84%)	1 (1.96%)	51(100.00%)	
合計	12 (10.81%)	9 (8.11%)	12 (10.81%)	111(100.00%)	
カイ2乗値	0	0	6.060*		
7. 価値の多様性					
	尊重	葛藤	社会	教材	ケース数
相談支援員	22 (36.67%)	2 (3.33%)	5 (8.33%)	5 (8.33%)	60(100.00%)
保育士	18 (35.29%)	2 (3.92%)	1 (1.96%)	1 (1.96%)	51(100.00%)
合計	40 (36.04%)	4 (3.60%)	6 (5.41%)	6 (5.41%)	111(100.00%)
カイ2乗値	0	0	1.12	1.12	

る。今後は、より意識してもらえよう研修において取り組む意義が感じられる。

保育士で、より受けとめられやすかったのは「対話を重視」であり、「実践してみた」割合も保育士が最も高かった。子どもと日々生活を共にし、直接支援にあたる時間が長いことから、これに対する意識も高く、理解も実践への結びつきも深かったと思われる。

実践への応用について3つの選択肢から回答してもらった結果、全般的に「照らし合わせた」が多かったが、5年目までの経験年数の浅い職員ほど「活用したい」と感じる傾向がうかがえた。この前向きな姿勢を今後の支援に活かしていけるよう、研修後のフォローアップなども考えていけるとよい。

実践への応用について「活用したい」と思ってから「実践してみた」に移っていくと考えれば、これら実践に結び付けて、より考えられやすかったのは、「利用者の主体性」「ストレンクス」「価値の多様性」であった。そして保育士は「活用したい」、相談支援員は「実践してみた」となる傾向にあった。実践に応用することを想定した演習等を組み込むことで、「活用したい」から「実践してみた」に移る割合が増えていくかもしれない。また、何らかの形で実践しての振り返りの機会を設けることも、「実践してみた」の割合を高めることにむすびつくと考えられる。また、「実践してみた」の割合が高かった概念は、比較的实践しやすい、すなわち1回の研修による効果があらわれやすい学習テーマでもあると言えよう。

自由記述回答の分析からは、「利用者から出発」に関して、相談支援員は利用者の「視点」「立場」といった記述に統計的な有意差が認められた。一方、「対話を重視」において保育士は、「気持ち」で相談支援員よりポイントが高かった。これらから、相談支援員は、当事者を

より「状況のなかの人」としてとらえようとする姿勢、保育士は、より子ども(利用者)自身の気持ちや思い、考えに寄り添おうとする姿勢をもっていることがうかがえる。「インクルージョン」では保育士は、「家庭」「親」や「安心」「安全」といった記述から、社会との関係でも「家庭」という最小単位をまず重視していた。相談支援員は、「社会」「地域」「環境」のように社会をより広くとらえ、「繋がり」「協力」など社会における「連携」を視野に入れていた。こうした職種による特徴を大切にしつつ、双方の良い点を演習や対話を通じて、互いに学び合っていくような研修が提供されることを期待したい。

「ストレンクス」と「価値の多様性」の演習で用いた「教材」についての記述が相談支援員に多く、どのような素材を用いるかも理解や受けとめ方を大きく左右するのではないかと考えられた。「ストレンクス」の教材は保育士にも興味がわきやすいと考え童話(「三匹のこぶた」)を用いたが、より興味関心を持って取り組める教材を検討していく必要がある。

5 これからの現任研修の充実に向けて

研修で取り上げた法人Aの支援における、支援で大切にしたい7つの概念は、社会福祉の基本的価値でもあるため、社会福祉の専門的な学びをしてきた職員にとっては、再確認の機会だった場合も少なくなかった。基本的価値や理念は経験年数の多寡にかかわらず、実践で立ち返るべき概念ともされるが、これを所属する法人の「コアバリュー」として改めて位置づけ、職員全体で学び共有することの意義は大きい。繰り返しのテーマの学習であっても、受講者が新鮮な気持ちで学ぶことができるような研修内容や方法の工夫が求められる。また、現任職員に対する研修であるからには、よりいっそう具体的なレベルで吟味し、理解や考察を深めてい

けるようにしていくことが大切である。そして、研修をいわゆる「やりっぱなし」にするのではなく、その後どのようなフォローアップを行ったり、今後の研修につなげていけるかで、理解や実践への結びつきがより深まるといえよう。

今回の分析により、職種によって受けとめ方や考えに、違いや特徴があることが明らかとなった。各回の研修終了時の感想文でも、他の職種や勤務先の職員の話が聞けたり、グループワークができたことへの肯定的なコメントが非常に多かったが、混合研修を行い受講者同士の相互作用を促す内容、方法とすることで、お互いにより刺激を受けたり、新たな視点や考え方を獲得したり、より印象に残るものとするのが期待できる。

【謝辞】

研修の取り組みを通じて、法人Aの職員の方々から多くを学ばせていただいたことに心から感謝いたします。また「調査報告書」にもとづき本稿をまとめることにご理解、ご協力くださった法人Aの理事会、ご関係の方々に、改めて御礼申し上げます。

【注】

- (1) 実際の研修では、本部の判断により医療介護事業部からも4名参加者があった。
- (2) 8時30分～17時15分で、午前、午後2コマずつと、最後にまとめ・ふりかえりの時間から構成された。
- (3) 「調査報告書」は必要に応じ本稿で引用している。非刊行物につき、「調査報告書」原本を確認したい場合は、明治学院大学社会学部附属研究所研究員である筆者まで連絡をいただきたい。

- (4) 研修が厚生事業部と児童福祉部の職員を対象としていることや、事業部内の施設・事業所等の配置状況から、職種は「相談支援員」(62名、53%)と「保育士」(51名、44%)で大部分を占め、「児童指導員」(4名、3%)はごくわずかだった。相談支援員の勤務先種別は「施設(厚生事業部)」(28名)または「事業所・相談窓口(厚生事業部)」(33名)(差の1名は病院(不確定))、保育士はすべて「保育園・こども園」だった。
- (5) KH Coderは計量テキスト分析のために樋口耕一によって開発されたソフトであり、テキスト型データの分析方法として有効であると考え、採用した。
- (6) 「0～5年目」45名、「6～10年目」42名、「11～20年目」25名、「21年目～」4名となった。21年目以上の職員は母集団が著しく少ないため、本稿では分析対象から外した。
- (7) 「調査報告書」の職員全体の集計値を掲載した。本稿の表3～表6では、職種別のクロス集計を行っており、その際、職種が空白だった1名を除いて再集計したため、「調査報告書」の数値と若干変化した箇所がある。
- (8) 相談支援員は「インクルージョン」と「ストレングス」では「6～10年目」の方が「活用したい」が若干高いものの、その差はそれぞれ0.76ポイント、2.28ポイントでわずかである。

【文献】

- 樋口耕一(2014)『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して』ナカニシヤ出版
- 厚生労働省(n.d.)「社会福祉法人制度改革について」2017年9月13日閲覧
<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12000000-Shakaiengokyoku-Shakai/0000155170.pdf>
- 志村久仁子(2017)「法人A『コアバリュー研修』受講者による評価に関する報告書」